

第5章



地力と風格のある都市久留米 〈活力・交流・拠点都市〉



第1節 知恵と技術を創造するまちに

第2節 アジアに開かれた学術研究のまちに

第3節 人と情報が行き交うにぎわいのあるまちに

第4節 拠点都市の役割が果たせるまちに

第5章

地力と風格のある 都市久留米

〈活力・交流・拠点都市〉

21世紀の福岡県南地域の発展を担う中核都市として
“「地力」と「風格」を兼ね備えた都市”を目指します。

基本的な方向

21世紀の久留米市の都市発展の礎は、地域社会を活力あふれた社会として自ら創り上げる「地力」と、福岡県の第3の都市、中核市として都市圏全体の一体的発展の視点を持ち、一貫した理念のもとでたゆまぬ都市づくりから醸し出される都市としての「風格」を持つことです。

◆「地力」はあらゆる分野で多様性、独創性を発揮し、挑戦することで蓄えられます。地域に脈々と流れている進取・創意の地域風土を、農業、工業、商業など多様な分野で継承し、新分野に挑戦する起業家精神の醸成や、新産業の創出など、独創的でチャレンジ精神にあふれた活力ある産業構築を進めます。

特に、学術研究機能や医療、農業など資源の集積を活かし、アジアを視野に置いたバイオクラスターの形成を進めます。

◆産業振興や文化振興、生涯学習など、様々な創造的な社会活動をリードするだけでなく、アジアの発展に貢献できる、九州アジアの学術研究拠点に相応しい都市づくりを進めます。

◆多彩な楽しみにあふれ、多様な活動・交流の舞台となり、人々の多様なニーズや創造性を刺激する、人と情報が行き交うにぎわいのあるまちづくりを進めます。そのため、都心部商業の活性化などによる魅力ある広域商業の振興や、新幹線開業のインパクトを活かした戦略的な観光・コンベンション振興などに取り組みます。

◆都市の「風格」は、都市圏全体の一体的発展の視点を持ち、一貫した理念のもとたゆまぬ都市づくりから醸し出されます。そのため医療や福祉、教育、文化、スポーツ、商業など多様な広域的な高次都市サービス機能の充実に努め、福岡県南地域の中核都市としての役割が果たせる都市づくりを推進します。

特に、福岡県の県土構想と連動し、久留米広域都市圏の人々から期待される役割を果たす都市づくりを進めます。

第1節 知恵と技術を創造するまちに

展望と課題

◆本市の産業は、豊かな自然環境や恵まれた立地条件のもと、農業・工業・商業がバランスよく発展してきました。

農業の分野では、土地利用型農業や果樹、畜産など多様な農業が営まれ、広域合併によって緑化樹や果樹など大幅に増え、全国有数の農業産出額を有する都市となりました。

◆しかし、このような恵まれた農業生産環境にありながら、近年のグローバル化や市場開放、後継者不足、農業所得の伸び悩みなど多くの課題も抱えています。

◆国においては、これまでの全農家を対象とした品目ごとの価格政策から、担い手に対象を絞り、経営全体に着目した政策への転換をはじめ、BSEや鳥インフルエンザ問題など食の安全確保、食育の推進、バイオマスの利活用、消費者と生産者の交流や地産地消の取組、スローフードなど生活様式の変化に対応した食のあり方、農産物のブランド化・高付加価値化など、様々な視点を反映した農業政策が展開されています。

◆農業が果たしている自然環境を含む環境保全機能や、安全な農産物の生産機能、市民一人ひとりの豊かな暮らしを支える食文化機能、農業が育んだ田園景観や民俗文化など、私たちの暮らしにとって、農業の重要性は増しており、本市においても、地域の特色を活かした活力と魅力ある農業政策が求められています。

◆また、本市の工業は、農産物加工品や酒造業、繊維産業などの地場産業、そしてゴム産業を基幹産業として発展してきましたが、近年はゴム産業のウエイトが低下し、本市の製造品出荷額が減少するなど地域経済の底力が衰退しつつあります。一方で、経済を取り巻く環境は、グローバル化、高度情報化、先端技術化や規制緩和など大きく変化しており、このような環境変化に対応できる産業構造への変革と地域産業の再構築・活性化が求められています。

◆本市ではこれまで、地域企業の技術高度化や研究開発機能の強化に取り組んできましたが、今後も、福岡県との連携・協力のもと、福岡バイオバレープロジェクトを推進し、地域の人材や資源等も活かしながら、バイオテクノロジーを核とした戦略産業の振興や多彩なベンチャービジネスの創出育成を図り、戦略的産業分野の企業、研究機能の地域内誘導を進めることが重要となっています。

◆さらに、新たな視点からの産業として生活産業、シニアサービス産業、公共サービスのアウトソーシングなどの多様な産業分野への対応を図る必要もあります。



主要な取組視点

◆新たな基幹産業の創出に向けて、バイオを中心に、情報通信、環境、医療・福祉など、本市の特性を活かした発展可能性の高い戦略産業分野について、産学官の連携のもとに重点的に取り組みながら、戦略的企業や研究開発機関の地域内誘致を積極的に進めます。

◆多様な産業分野において、知恵や技術を活かした独創的な起業家精神を醸成し、次代を担う新産業の創出・集積を進めるために、新技術、新事業、新産業を創出する仕組みの強化、ベンチャー企業の創出・育成を図ります。



◆本市の21世紀の産業拠点となるオフィス・アルカディア事業地区内への、多様な業務機能の早期誘導と集積を図るとともに、久留米広川新産業団地、吉本工業団地などの産業団地への企業誘致に取り組めます。

◆久留米市食料・農業・農村基本条例を踏まえた基本計画に基づき、活力と魅力ある農業を目指して、認定農業者をはじめ、農業後継者や新規就農者、集落営農、農業法人など多様な担い手の育成を推進するとともに、市場・消費者を視点に、生産から加工流通までの多彩な農業活動の振興を図ります。

◆本市の特性でもある花き、花木等の緑化産業やブランド農産物の振興を図るとともに、良質な堆肥を活用した土づくり、自然循環型の農業、環境と調和した農業の実現を図っていきます。



農業体験

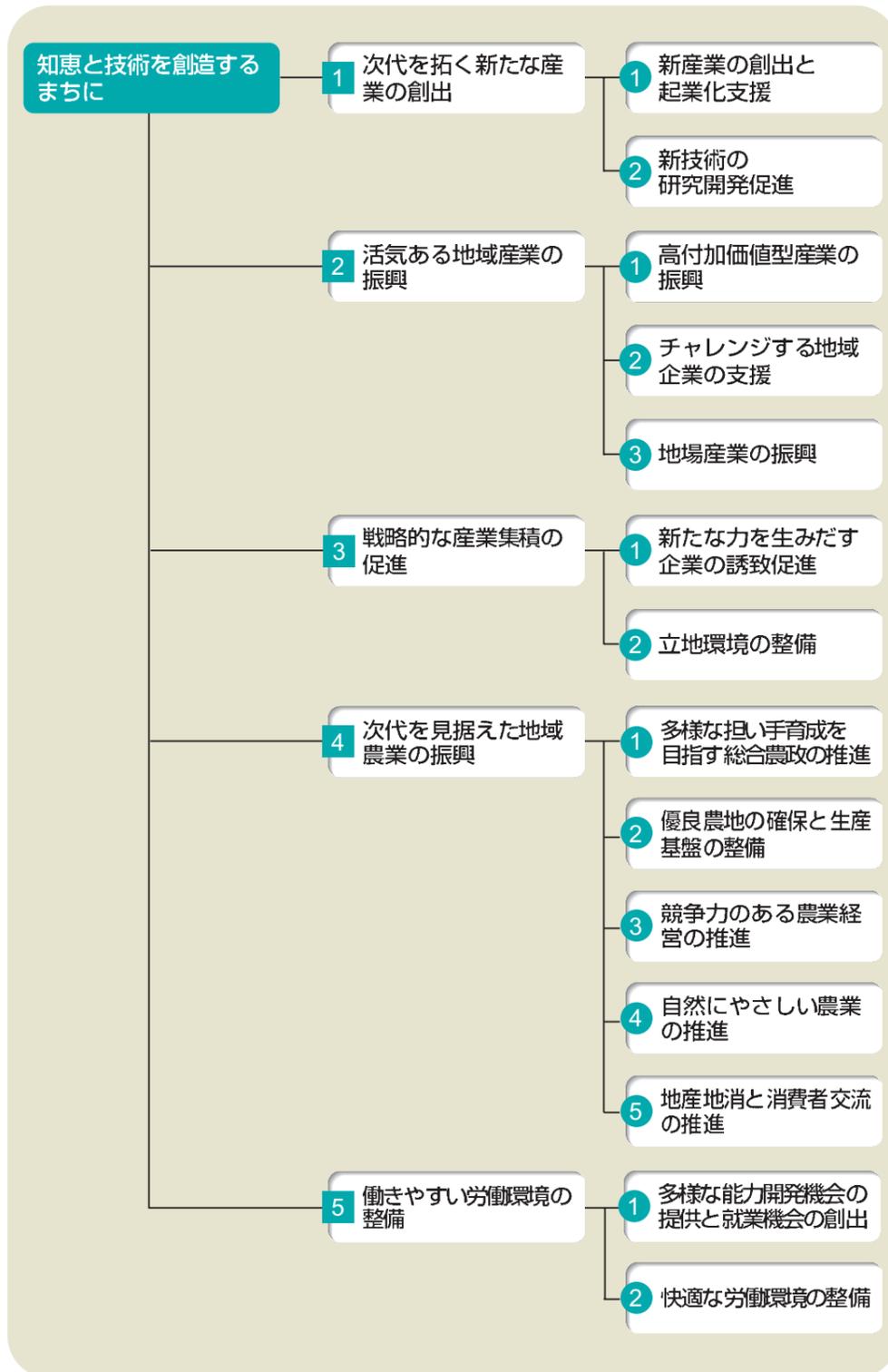


ぶどう狩り



学校給食用のジャガイモの植え付け

施策体系



施策の内容

1 次代を拓く新たな産業の創出

① 新産業の創出と起業化支援

◆新たな産業創出に向けて、起業家精神の醸成・喚起を図りながら、技術開発支援、インキュベーター機能の充実、資金融資や経営指導など総合的支援を行うために、(株)久留米リサーチ・パーク、(株)久留米ビジネスプラザなどの中核的な産業支援機関の充実強化などによる新技術創造や新産業創出の支援・育成を進めます。

◆特に、将来の産業基盤となる新分野の産業創出に向けて、福岡県と密接な連携・協力のもと、福岡バイオバレープロジェクトを推進します。福岡バイオインキュベーションセンターを中心に、バイオベンチャーの創出・育成、産学共同研究の促進・充実を図ります。

特に、研究開発段階から製造段階に成長しつつあるバイオベンチャー等の育成支援を含めた拠点機能の充実を図りながら、久留米バイオクラスター形成を積極的に推進します。



久留米リサーチパークと福岡バイオインキュベーションセンター (F-BIO)

② 新技術の研究開発促進

◆バイオや情報通信、医療・福祉、環境などの戦略産業分野における新事業創出を目指し、地域の学術研究機関との連携協力を進めながら、研究プロジェクトの誘致などを推進します。

第2回バイオクラスターランキング (総合)

順位	バイオクラスター
1位	北大阪バイオクラスター
2位	神戸地域クラスター
3位	北海道バイオ産業クラスター・フォーラム
4位	ライフサイエンス都市横浜
5位	福岡バイオバレー

出典：日経バイオビジネス

2 活気ある地域産業の振興

1 高付加価値型産業の振興

◆市内の既存企業の技術高度化や研究開発機能の強化を進めるとともに、新産業創出などを支援する産業支援型サービス業の育成・集積など高付加価値型産業集積を図ります。

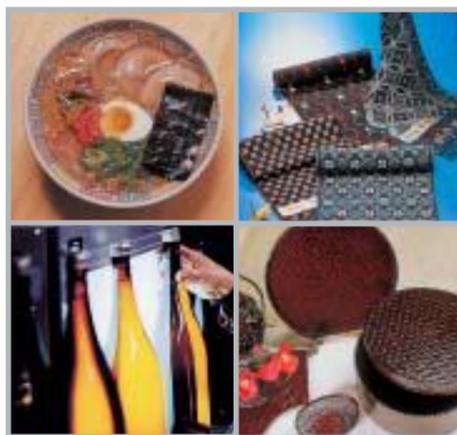
2 チャレンジする地域企業の支援

◆情報通信技術の活用や技術の高度化、人材の育成、制度融資、経営相談などによる経営基盤の強化を支援するとともに、新分野・新産業創出に対するチャレンジ精神を喚起し、地域企業の活性化支援に取り組みます。

◆また、地域企業間の連携、地域の農業・工業・商業間の連携を進め、総合的な産業力の強化・育成を図ります。

3 地場産業の振興

◆商品やデザインの開発、販路の拡大、新規市場の開拓や経営力の強化などの支援により、久留米餅や藍胎漆器、地酒、瓦など生活産業として地場産業の振興を図ります。



3 戦略的な産業集積の促進

1 新たな力を生みだす企業の誘致促進

◆産業振興奨励金や産業立地交付金などの活用により、オフィス・アルカディア事業地区内や久留米広川新産業団地、吉本工業団地への企業誘致を積極的に進めます。また、ビジネスプラザの活用促進や企業立地セミナーの開催、企業訪問・PR活動などの企業誘致推進事業を進め、特にバイオや情報通信、医療・福祉、環境分野などの次代を担う戦略産業や都市型産業等の戦略的な企業誘致・立地を促進します。



久留米ビジネスプラザ

2 立地環境の整備

◆産業団地へのアクセス性の向上など立地環境の整備を図るとともに、既存団地の分譲状況、地価や立地状況、団地の目的や必要性、整備・分譲の仕組み等を検討し、計画的な新規産業団地の整備を図ります。



久留米広川新産業団地

4 次代を見据えた地域農業の振興

1 多様な担い手育成を目指す総合農政の推進

◆農業労働力の減少や高齢化による担い手の脆弱化に対応するため、認定農業者制度の活用や集落営農の推進、法人化など、地域の実状に応じた多様な担い手の育成や農業経営力の向上、生産環境の整備を図り、年齢、性別を問わず、農業者一人ひとりの力が発揮できるよう地域農業の活性化に取り組みます。

2 優良農地の確保と生産基盤の整備

◆農業基盤の整備や農業生産の状況、農業就業者の状況等を踏まえ、本市農業に必要な優良農地を確保するとともに、農業生産性の向上を図るため、農業生産基盤の整備を計画的に進めます。

3 競争力のある農業経営の推進

◆輸入農産物の増加や産地間競争の激化など農業を取り巻く環境が厳しい中、消費者に支持される安全で高品質な農産物の生産を目指し、競争力のある農業経営を実現する取組を進めます。

◆消費者ニーズに対応した新鮮で安全な農産物の生産や農産物のブランド化、高付加価値化、産地化を図るとともに、その拠点として複合アグリビジネスの整備を進めます。また、県の農産物輸出促進策と連携しながら、農産物の多様な流通ルート、市場開拓に取り組みます。

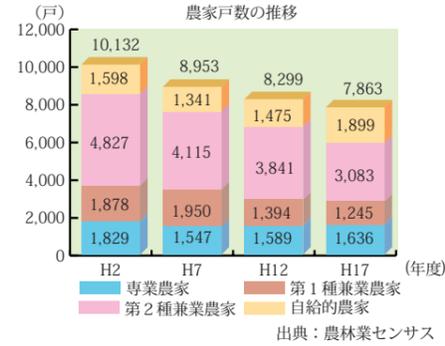
◆規模拡大を図る担い手の意欲に応えるため利用集積を促進し経営基盤の強化を図ります。



複合アグリビジネス拠点施設完成イメージ図

④ 自然にやさしい農業の推進

◆環境問題への関心が高まる中、家畜排泄物を良質堆肥として活用するための土づくりセンターの整備や、土づくりと減農薬・減化学肥料の取組を一体的に行う自然循環システムの確立を図ります。



⑤ 地産地消と消費者交流の推進

◆食と農を取り巻く環境の変化に対応するため、食料・農業・農村に対する理解促進を目指し、食育の推進や食の安全の確保、生産者と消費者、都市と農村との連携・交流の推進に努めます。また、地域で生産された安全・安心で質の高い農産物を地域で消費する地産地消を進めるため農産物直売施設の整備に取り組みます。

◆グリーンツーリズム等の都市と農村の交流や相互理解への関心が高まっており、今後も交流を基礎とした都市と農村、消費者と生産者の相互理解に向けた取組を進めます。



⑤ 働きやすい労働環境の整備

① 多様な能力開発機会の提供と就業機会の創出

◆雇用・就職を希望する人々が、適性や意向に応じて就業できる社会を目指して、久留米地区職業訓練協会や久留米コンピュータ・カレッジなどによる能力開発の機会を提供するとともに、就業面談会、就業相談などを実施し就業機会の創出を図ります。

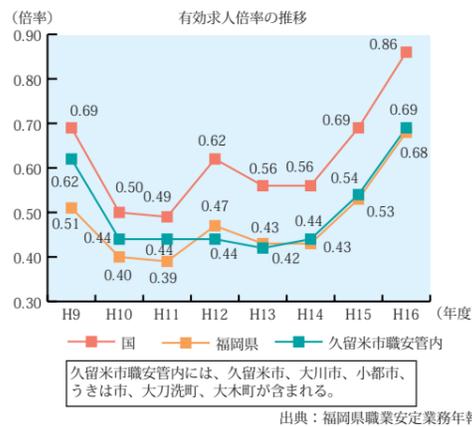
◆ハローワークやくるめパートバンク、早期就職支援センター、若年者ごとサポートセンター筑後ランチなど国等の機関と連携しながら就業相談など就業支援を図り、団塊の世代の就職希望者や

② 快適な労働環境の整備

◆女性の社会進出が進み、労働環境が多様化する中で、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の作成などを通じて、男性も含めた働き方の改善などに取り組んでいきます。

◆また、派遣労働や契約社員等雇用形態が多様化していく中、労働者、使用者、行政の連携による時代に対応した労働環境の整備に取り組みます。

※ニートなどの対策をはじめ、中高齢者や障害者、若年者などの就業の場の確保に取り組んでいます。



就業面談会

施策推進のための主な事業

1 戦略事業

事業名称	事業内容等
新産業創出支援体制充実事業	市の重点産業分野であるバイオ産業などの起業化やベンチャーの創出・育成を目指して、中小企業やベンチャー企業と他企業・研究機関等を引き合わせるコーディネート支援や研究開発支援を行い、新事業に挑戦する企業の研究開発や新事業展開への取組を促進し、平成26年度には年間コーディネート件数10件、産学共同研究件数3件を目指します。
バイオ産業振興事業	バイオテクノロジーを核とした新産業の創出や企業・研究機関の一大集積(バイオクラスター)形成を目指し、バイオ関連分野の研究開発プロジェクトの推進、バイオベンチャー企業等の創出・育成支援、企業・研究者のネットワークづくり等を推進し、平成26年度までにバイオベンチャー30社の集積を図ります。
企業誘致推進事業	経済の新たな活力を生み出すため、オフィス・アルカディアや久留米広川新産業団地、吉本工業団地等に戦略的な企業誘致を行い、産業集積と経済基盤の安定化を図ります。平成26年度までの誘致目標数を80社とします。
* 複合アグリビジネス拠点整備事業	国の「道の駅」事業と一体となって、生産・流通・情報・交流機能などを持つ「複合アグリビジネス拠点施設」を整備し、地産地消の拡大や地域農業の活性化等を進めます。平成26年度の施設での年間販売額5億円を目指します。
多様な担い手育成事業	次代の農業を担う認定農業者、新規就農者、農業法人などの多様な担い手の育成を図ります。毎年15人程度の新規就農者を確保するとともに、平成26年度までに認定農業者数950人、集落営農法人数40法人を目指します。
土づくり推進対策事業	畜産糞尿の堆肥化施設整備と堆肥化の推進、堆肥の利用推進による土づくりを一体的に進めることで、良質堆肥の普及推進や化学肥料・農薬の低減など自然環境システムの確立を図ります。平成26年度における完熟堆肥の露地野菜への堆肥施用率50%を目指します。

* …主に前期5カ年で取り組む事業です。

2 主要事業

事業名称	事業内容等
農道整備事業	農村振興と定住環境の改善を目指して、田主丸町の農道整備を行います。

第2節

アジアに開かれた学術研究のまちに

展望と課題

◆本市には5つの高等教育機関と4つの公的研究機関等の学術研究機関が集積しており、今後においても、九州北部学術研究都市整備構想（アジアス九州）と連携しながら、アジアを視点に戦略性を持った重点的な学術研究機能の拡充が必要です。

◆大学や公的研究機関などの学術研究機関の知的・人的・物的資源を地域の視点で活かす取組を充実し、地域に大学等の姿が見えるまちづくりを進めることが求められています。

◆特に、本市が目指す「バイオクラスターの形成」を推進していく上で、先端技術分野等における基礎研究の重要な担い手である大学や公的研究機関などの学術研究機関の役割がますます重要になっています。

◆また、先端技術分野のクラスターを形成していくためには、優秀な人的資源を獲得することが重要であり、そのための環境整備が必要です。加えて、先導的学術研究プロジェクトを継続的に誘致することが、クラスターとしての魅力を増大させるための大きな要因となります。

◆これからの新たな都市づくりにあっては、知的資源を整備・充実し、そこから創造される知的財産を活用した産業振興や文化振興、豊かな暮らしづくりを展開することが重要となっています。その意味から、知的資源を核とした都市づくりは、これからの時代の重要な課題です。

◆また、これまで地域に蓄積されてきた知的資源を知的財産に転換させ、これを地域でいかに共有し、活用していくかが今後の都市経営の中で非常に重要です。そのためにも、知的財産を軸とした産学官連携を推進していくことが必要です。

主要な取組視点

◆アジアス九州と連動し、市内の大学などの学術研究機能の拡充を進めるとともに、学術研究が果たす役割や、学術研究機関の取組などの情報提供・啓発などを進めます。また、学術研究機関や研究プロジェクトの積極的誘導を図るとともに、バイオテクノロジーを中心とする戦略的分野の関係研究機関の集積を高めるなど、産学官の密接な連携を促進します。

◆地域の知的資源を、地域のまちづくりに総合的に活用する仕組みづくりの充実を進めるとともに、学術研究機関が有する施設・設備、学術研究機能、情報などの地域開放に取り組み、地域に大学や研究機関等の姿が見えるまちづくりを展開します。

施策体系

アジアに開かれた学術研究のまちに



施策の内容

1 学術研究機能の集積促進

① 多様な学術研究機能の充実

◆本市の高等教育機関などの主体的な学術研究機能の拡充・整備を促進するとともに、長期的な視点から多様な学術研究機能の核となる人材及び学術研究機関の誘致・設置を検討します。

② 先導的学術研究プロジェクトの設置誘導の推進

◆バイオテクノロジーを中心とする戦略的分野における、国・県・民間などの先導的な研究プロジェクトの設置・誘導を進めます。

③ 学術研究拠点ゾーンの整備推進

◆本市の新たな学術研究機能集積を促進するために、学術研究業務ゾーンの整備等について検討します。

2 大学等の姿が見えるまちづくり

① 新産業創出を先導する産学官研究ネットワークの強化

◆新産業の創出を図るために、大学や研究機関などのシーズと、民間産業界や市場ニーズを結びつけるプラットフォーム機能の整備を進めるとともに、知的財産を軸とした産学官研究ネットワークの構築や研究成果を活かした事業化を促進します。

② 国際的な学術交流拠点づくり

◆外国人研究者や留学生の受け入れや相互交流、大学の海外大学との交流・提携、学術活動における主体的な交流など地域における国際交流活動の促進や環境整備を進め、国際的な学術交流拠点づくりを進めます。

③ 大学等と地域の連携推進

◆市と大学等との事業協力協定など組織的な活動体制の整備を進め、教育、福祉、介護、まちづくりなど多様な分野における地域課題の解決に連携して取り組むとともに、大学等が有する人材、施設・設備、情報、研究成果などの地域開放や、市民団体活動との連携を促進します。

④ キャンパス・タウンの整備

◆地域に大学等が集積している等の特性に応じて、大学のあるまちに相応しい環境整備を進めていきます。

施策推進のための主な事業

1 戦略事業

事業名称	事業内容等
学術研究都市推進事業	バイオテクノロジーなどの次代を担う先端的分野の学術研究機関や先導的な学術研究プロジェクトの誘致・設置を推進するとともに、大学等の学術研究機関の主体的な機能拡充を支援します。平成26年度までに5件の研究プロジェクトの誘致を目指します。



久留米大学COE国際フォーラム



生物農産物研究所